

動画の絵本としての位置づけ を考察するにあたって

(Ⅰ)前段として 絵本の基本的な機能 を探求してみました。〔#13/#14〕

・この探求の過程で

- 子どもが絵本に接するとき 生きている事実に根ざして 自分だけの世界を創造するものであること

【註】

・ PDFには割愛しておりますが 《学生たちの回想記録》には『空想の世界と現実の世界とは峻別していた』旨のものがああります。

・ 前記同様の割愛ですが『両親や保護者に 創造した世界のすべてを語るとは限らない』旨の記述箇所があります。

- 視覚化された絵本も存在するものであること
- 『絵本は めくることにより成立するイメージの連続世界』であり『ファンタジーの世界の論理は想像力の飛躍が命』であること

が理解できました。

(Ⅱ)それでは 静止画と対比させた場合の動画の機能はどのようなものでしょうか。

・これには

- 動画の構成に付随することではありますが 現実の世界に即したものであれば空想の世界の創造に寄与することは可能である こと

● 伝統的な絵本の《読手による言語》と《絵》の同時視聴に対して遜色のないものである こと

● 『イメージの連続世界』の成立に効果的であり『想像力の飛躍』が容易である こと

などが挙げられると思います。

・ただし 著書に記述されているように

- 『子どもの発達にとってどのように意味があるかというようなメッセージを付け加えていない』ものであること

● 子どもの創造に対して大人の介入のないもの であること

などの条件が動画にも不可欠であると思います。

(Ⅲ)以上のことから

・動画は絵本としての活用が可能である との結論を得た次第です。

※なお 絵本の機能に関して 著書《絵本の力》から〔絵本の中には音も歌もある〕と〔絵本は大人が子どもに読むもの〕をご紹介します。